

35 Ex. 63

昭和十二年十二月

「ブリュッセル」ニ於ケル支那ニ關スル

九國條約締約國會議經緯

千九百三十七年十一月自三日至二十四日

條約局第三課

#### 第四章 武府會議休會及十一月二十四日會議聲明ノ採擇

敘上(並ニ第一章第三節參照)ノ經緯ヲ以テ會議ハ十一月二十二日ヨリ掉尾ノ會合ヲ爲セルカ既ニ會議ノ事業ノ意義ニ付少カラサル疑ヲ懷クニ至レル爲如何ニシテ結末ヲ着クヘキカニ竊心シタルモノノ如ク「スバーク」議長ハ會議ノ台間ニ倫敦訪問ノ際會議ノ將來ニ關シテモ協議シタルモノト認メラルル處英國側ハ米國ト協議シテ其ノ態度ヲ決セン「スルモノト觀測セラレタル趣ナルカ結局英米ヨリ「ノート」ヲ提出之ヲ審議スル手筈ト爲シ右「ノート」ハ二十二日午後一時各國代表ニ配布セラレ午後三時會合ノ豫定ナリシ趣ノ處原案ハ(イ)會議ハ遺憾ナラ不成功ニ終レリ(ロ)會議ヲ一時休會ス(ハ)其ノ間利害關係最深キモノハ日支兩國ニ對シ紛爭ノ解決方努力スヘシ(ニ)事態カ要求スル場合ハ更メテ會合ストノ趣旨ニテ多少色ヲ着ケタル延期ナリシカ英米カ之ヲ事前ニ支那側ニ内示セル爲支那側ヨリ強硬ナル抗議出テ新ナル「ノート」ヲ起草スルコトト爲リタル趣ニシテ會合時間モ延期セラレタルカ午後三時ニ致リ各國代表部ニ配布セラレタル文書ハ議長ノ要求ニ依リ英米側代表部作成提出シタル聲明案ト會議參加國ニ對スル報告案トヨリ爲ル處二十二日會議ニ於テ聲明案ノ審議ニ際シ顯微鏡ハ極度ニ憤懣ノ色ヲ爲シ其ノ内容空虚ニシテ支那ハ全ノ不滿ナリトト先般ノ會議聲明中ノ共同態度ニ言及セタルコト及紛爭ノ解決ニ關スル有效ナル措置ヲ講スル所ナキヲ指摘シ支那ハ自國防衛ノ爲ノミナラス條約ノ神聖擁護ノ爲戰ヒツアルニ對シ義ニ要求シタル支那援助ニ關シテハ何等酬ユル所ナシ會議ハ宜シク侵略者ト被侵略者トヲ區別スルヲ要ストテ本國政府ニ請訓ノ爲四十八時間ノ猶豫ヲ要求セリ

墨西哥代表モ支那ノ主張ニ贊シ聯盟ノ措置ニ迄言及シタルモ他ニ發言者ナキ爲支那ノ回訓ヲ待ツ間報告案ノ審議ニ移レル趣ナリ

報告案ハ會議參加國ニ對スル報告ノ建前ナリシヲ會議カ自ラ經過ヲ敘スル形式ト改メ又會議ノ書類トシテ日本側回答及聲

明等ヲモ採録スルコトセリ(右採録ハ在白來橋大使ヨリ某方面ニ對スル注意ニ基キテ爲サレタル趣ナリ)  
二十四日ノ會議ニ於テ聲明及報告書採擇セラル此ノ際支那代表ハ報告書中ニ支那ノ聲明ヲ挿入方要求セル爲伊太利代表亦  
其ノ聲明ノ採録方ヲ求メ斯ク支那ハ其ノ協調的精神ヨリ本案ニ賛成ストノ旨ヲ聲明シ伊太利代表ハ報告中ノ諸點ニ悉ク反  
對ナル旨ヲ述ヘ米國「デヴィス」代表ハ本件報告書ヲ世界ノ總テノ國ニ送付方ヲ提議シ右提案採擇セラレタリ

斯ク成リタル報告書ハ其ノ第十二項ニ會議ノ聲明ヲ包含シテ會議ノ事業ヲ記錄シタルモノニシテ右ヲ採擇シテ會議ハ休會  
ニ入レリ會議ノ今後ニ於ケル態度ニ關シテハ其ノ聲明ニ明ナル如ク會議參加國トシテ今後ノ事態ニ依然關心ヲ有スル次第  
ヲ敘スルト共ニ會議再會ノ途ヲ開キ又新ニ九國條約ノ效果ヲ確認シ且本件紛爭ノ解決ニ第三國ノ介入ヲ必要ナリトスル所  
以ヲ強調シタルモノナリ

當日ニ於ケル支那代表演說ハ十一月二十四日會議報告書附屬書七參照

全文左ノ通(原文附錄第十號ノ通)

#### 十一月二十四日「ブリュッセル」會議報告書

一、「ブリュッセル」會議ハ米國政府ノ同意ヲ得タル英國政府ノ要請ニ從ヒ白耳義政府ニ依リ招集セラレタリ右會議ハ千九  
百三十七年十一月三日開會セラレタル處其ノ事業ハ今之カ本質的の面ヲ想起スルコトヲ望マシトスル段階ニ到達セ  
リ

二、千九百二十一年ヨリ千九百二十二年ニ亘ル冬「ワシントン」ニ於テ相互ニ關聯セル一團ノ條約及協定調印セラレタ  
ル處就中最重要ナルモノノ一ハ支那ニ關スル諸原則及政策ニ關スル九國條約ナリキ

右條約及協定ハ綿密ナル檢討ノ上自由ニ協定セラレタルモノナル處其ノ本質的目的ハ太平洋地域ニ於ケル安定及安全  
ノ諸條件ヲ確立スルニ在リタリ

九國條約ハ第一條ニ於テ左ノ如ク規定シ居レリ

- (一) 支那ノ主權、獨立及領土の及行政の保全ヲ尊重スルコト
- (二) 支那ノ自ラ有力且安固ナル政府ヲ確立維持スル爲最完全ニシテ且最障礙ナキ機會ヲ之ニ供與スルコト
- (三) 支那ノ領土ヲ通シテ一切ノ國民ノ商業及工業ニ對スル機會均等主義ヲ有效ニ樹立維持スル爲各盡力スルコト
- (四) 友好國ノ臣民又ハ人民ノ權利ヲ減殺スヘキ特別ノ權利又ハ特權ヲ求ムル爲支那ニ於ケル情勢ヲ利用スルコトヲ及  
右友好國ノ安寧ニ害アル行動ヲ是認スルコトヲ差控フルコト

以上ノ諸約定定ニ其ノ他ノ諸條約ニ定メラレタル諸規定ニ基キ且之ニ照ラシ太平洋地域ノ情勢ハ十年ノ間眞平ノ安定  
ト從テ右諸條約ニ豫見セラレタル方向ヘノ顯著ナル進歩ヲ以テ其ノ特徵トシ來レリ然ルニ最近數年間ニ於テ日支兩  
國間ニ聯繫セル紛爭續出シ右ハ竟ニ今次ノ戰鬭行爲ヲ誘發シタリ

三、會議招請狀ノ文言ニ從フモ「ブリュッセル」會議ノ目的トスル所ハ「九國條約第七條ニ基キ東亞ニ於ケル事態ヲ檢討  
シ且該地域ニ行ハル遺憾ナル紛爭ノ終結ヲ促進スヘキ和協手段ヲ攻究スル」コトヲササヘカラス、日本ヲ除ク外  
千九百二十二年二月六日ノ九國條約ニ署名シタル又ハ之ニ加入シタル一切ノ國ハ右招請ヲ受諾シ招請狀ニ表明セラレ  
タル目的ノ爲「ブリュッセル」ニ其ノ代表ヲ派遣セリ

四、右會議ニ代表ヲ派遣シ且有效的ニ其ノ議事ニ參加シタル支那政府ハ九國條約ノ他ノ締約國ト同條約第七條ノ規定ニ  
從ヒ商議ニ入りタリ支那政府ハ其ノ現在ノ軍事行動ハ支那ニ於ケル日本ノ武力侵入ニ抵抗スル意思ニ基クニ外ナラザ  
ル旨ヲ宣言シ支那政府ハ九國條約ノ原則ヲ基礎トシタル平和ヲ受諾シ且條約ノ神聖ノ原則ヲ維持スル爲他ノ諸國ト其  
ノ全誠意ヲ以テ協力スル用意アルコト宣明シタリ

五、日本政府ハ會議ノ招請ヲ受諾シ能ハサルコトニ遺憾ヲ表明スルト共ニ「今次帝國ノ支那ニ於ケル行動ハ支那側  
ノ極端ナル排日政策ノ強行特ニ實力ヲ以テスル挑發行爲ニ依リ餘儀ナクセラレタル自衛措置ニシテ帝國政府累次

明等ヲモ採録スルコトセリ(右採録ハ在白來栖大使ヨリ某方面ニ對スル注意ニ基キテ爲サレタル趣ナリ)  
二十四日ノ會議ニ於テ聲明及報告書採擇セラル此ノ際支那代表ハ報告書中ニ支那ノ聲明ヲ挿入方要求セル爲伊太利代表亦  
其ノ聲明ノ採録方ヲ求メ斯ヲ支那ハ其ノ協調の精神ヨリ本案ニ賛成ストノ旨ヲ聲明シ伊太利代表ハ報告中ノ諸點ニ悉ク反  
對ナル旨ヲ述ヘ米國「デヴィス」代表ハ本件報告書ヲ世界ノ總テノ國ニ送付方ヲ提議シ右提案採擇セラレタリ

斯ニ成リタル報告書ハ其ノ第十二項ニ會議ノ聲明ヲ包含シテ會議ノ事業ヲ記録シタルモノニシテ右ヲ採擇シテ會議ハ休會  
ニ入レリ會議ノ今後ニ於ケル態度ニ關シテハ其ノ聲明ニ明ナル如ク會議參加國トシテ今後ノ事態ニ依然關心ヲ有スル大第  
ヲ敘スルト共ニ會議再會ノ途ヲ開キ又新ニ九國條約ノ效果ヲ確認シ且本件紛爭ノ解決ニ第三國ノ介入ヲ必要ナリトスル所  
以ヲ強調シタルモノナリ

當日ニ於ケル支那代表演說ハ十一月二十四日會議報告書附屬書七參照  
全文左ノ通(原文附錄第十號ノ通)

#### 十一月二十四日「ブリュッセル」會議報告書

一、「ブリュッセル」會議ハ米國政府ノ同意ヲ得タル英國政府ノ要請ニ從ヒ白耳義政府ニ依リ招集セラレタリ右會議ハ千九  
百三十七年十一月三日開會セラレタル處其ノ事業ハ今ヤ之カ本質の部面ヲ想起スルコトヲ望マシトスル段階ニ到達セ  
リ

二、千九百二十一年ヨリ千九百二十二年ニ亘ル冬「ワシントン」ニ於テ相互ニ關聯セル一團ノ條約及協定調印セラレタ  
ル處就中最重要ナルモノノ一ハ支那ニ關スル諸原則及政策ニ關スル九國條約ナリキ

右條約及協定ハ綿密ナル檢討ノ上自由ニ協定セラレタルモノナル處其ノ本質的目的ハ太平洋地域ニ於ケル安定及安全  
ノ諸條件ヲ確立スルニ在リタリ

#### 九國條約ハ第一條ニ於テ左ノ如ク規定シ居レリ

(一) 支那ノ主權、獨立及行政の保全ヲ尊重スルコト

(二) 支那ノ領土ヲ有力且安固ナル政府ヲ確立維持スル爲最完全ニシテ且最障礙ナキ機會ヲ之ニ供與スルコト

(三) 支那ノ領土ヲ通シテ一切ノ國民ノ商業及工業ニ對スル機會均等主義ヲ有效ニ樹立維持スル爲各盡力スルコト

(四) 友好國ノ臣民又ハ人民ノ權利ヲ保護スヘキ特別ノ權利又ハ特權ヲ求ムル爲支那ニ於ケル情勢ヲ利用スルコトヲ及

右友好國ノ安寧ニ害アル行動ヲ是認スルコトヲ差控フルコト

以上ノ諸約定及他ノ諸條約ニ定メラレタル諸規定ニ基キ且之ニ照ラシ太平洋地域ノ情勢ハ十年ノ間眞平ノ安定

ト從テ右諸條約ニ豫見セラレタル方向ヘノ顯著ナル進歩トヲ以テ其ノ特徵トシ來レリ然ルニ最近數年間ニ於テ日支兩

國間ニ聯繫セル紛爭續出シ右ハ竟ニ今次ノ戰鬭行爲ヲ誘發シタリ

三、會議招請狀ノ文言ニ從テ「ブリュッセル」會議ノ目的トスル所ハ「九國條約第七條ニ基キ東亞ニ於ケル事態ヲ檢討

シ且該地域ニ行ハル爾後之紛爭ノ終結ヲ促進スヘキ和協手段ヲ攻究スル」コトヲササヘカラス、日本ヲ除ク外

千九百二十二年二月六日ノ九國條約ニ署名シタル又ハ之ニ加入シタル一切ノ國ハ右招請ヲ受諾シ招請狀ニ表明セラレ

タル目的ノ爲「ブリュッセル」ニ其ノ代表ヲ派遣セリ

四、右會議ニ代表ヲ派遣シ且有效的ニ其ノ議事ニ參加シタル支那政府ハ九國條約ノ他ノ締約國ト同條約第七條ノ規定ニ

從ヒ商議ニ入りタリ支那政府ハ其ノ現在ノ軍事行動ハ支那ニ於ケル日本ノ武力侵入ニ抵抗スル意思ニ基クニ外ナラナ

ル旨ヲ宣言シ支那政府ハ九國條約ノ原則ヲ基礎トシタル平和ヲ受諾シ且條約ノ神聖ノ原則ヲ維持スル爲他ノ諸國ト其

ノ全誠意ヲ以テ協力スル用意アルコト宣明シタリ

五、日本政府ハ會議ノ招請ヲ受諾シ能ハサルコトニ遺憾ヲ表明スルト共ニ「今次帝國ノ支那ニ於ケル行動ハ支那側

ノ極端ナル排日抗日政策ノ強行特ニ實力ヲ以テスル挑發行爲ニ依リ餘儀ナクセラレタル自衛措置ニシテ帝國政府累次



ノ聲明ノ如ク九國條約ノ範圍外ナルコトヲ確言シタリ日本政府ハ更ニ多數國ノ會議ニ依リテ解決ヲ圖ルハ却テ事態ヲ紛糾セシメ公正妥當ナル解決ニ大ナル支障ヲ及ボスヘキ旨ヲ強調シタリ

六、千九百三十七年十一月七日會議ハ白耳義政府ノ仲介ニ依リ日本政府ニ對シ通牒ヲ送り右通牒ニ依リ日本政府ニ對シ特ニ指定セラレタル少數國ノ代表ト意見ノ交換ヲ爲ス爲一名若ハ數名ノ代表ヲ任命スル意思アリヤヲ質シタリ但シ右意見交換ハ係争點ヲ更ニ明白ニ決定シ且日支紛争ノ解決ヲ容易ナラシムル爲九國條約ノ範圍内ニ於テ且同條約ノ諸規定ニ基キ行ハルヘキモノタリシナリ右通牒ニ於テ「ブリュッセル」ニ會合セル諸國代表ハ平和的解決ノ齋ナレンコトヲ希望スル旨ヲ表明シタリ

七、日本政府ハ千九百三十七年十一月十二日其ノ先ニ表明シタル見解ヲ堅持セサルヲ得サル旨回答シタリ右見解ハ支那ニ對スル今次日本ノ行動ハ自衛措置ヲ構成スルモノニシテ九國條約ノ範圍外ナルコト竝ニ兩當事國ノ共同ノ努力ノミカ最公正妥當ナル解決ニ到達スルコトヲ得シムヘク且本會議ノ如キ集團的機構ニ依ル干涉ハ徒ニ兩國民心ヲ刺戟シ事變ノ圓滿解決ヲ阻礙スルニ過キサルヘシト言フニアリタリ

八、十一月十五日會議ハ一ノ聲明ヲ採擇シ右聲明ニ於テ南阿聯那、「アメリカ」合衆國、澳洲、白耳義、「ボリヴィア」、加奈陀、支那、佛蘭西、英國、印度、「メキシコ」、「ニールーランド」、和蘭、葡萄牙及「ソヴエト」社會主義聯邦共和國ノ代表ハ今次ノ紛争ハ千九百二十二年「ワシントン」九國條約締結國タル一切ノ國竝ニ千九百二十八年ノ巴里規約締結國タル一切ノ國ニ法律上關係アリ且事實上國際團體ノ成員タル一切ノ國ニ關係アルモノト認ムル旨ヲ確言セリ

九、前記ノ會議及日本政府間ノ意見ノ相違ニ鑑ミ會議ハ目下ノ所其ノ任務力協的ニ平和ヲ回復スル爲日本ト連絡ヲ開始スルニ存スル限リ右任務ヲ果スヲ得ルモノト認メラレス仍テ會議ハ其ノ事業ノ右段階ヲ終結シ且休會スルニ當リ新ナル聲明ヲ採擇ス

十、千九百三十七年十一月七日日本政府ニ送付セラレタル通牒ノ文言ハ左ノ如シ

(一) 十一月三日「ブリュッセル」會議參加國代表ハ十月二十七日白國政府ノ招請狀ニ對スル日本帝國政府ノ回答竝ニ右

回答ニ附隨セル聲明ヲ了知セリ  
(二) 日本帝國政府ハ右文書中ニ於テ就中支那ノ領土ヲ侵略スルカ如キ意圖ナキノミナラス却テ支那國民ノ物質的精神的向上ヲ祈念スルモノニシテ又外國ノ在支權益ハ他國之ヲ尊重シツツ列國ト共ニ文化的及經濟的協調ヲ期シ居ラルル次第ヲ表面セラレタリ

(三) 右聲明ニ於テ述ヘラレタル諸點ハ千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ署名セラレタル條約(九國條約)ノ根本原則ノ或モノヲ表ハセルモノナリ該條約締結國ハ右ニ關スル日本帝國政府ノ聲明ヲ丁承セリ  
(四) 加之日本帝國政府ハ日本ニ依ル九國條約違反ノ問題ヲ發生スル餘地ナキコトヲ聲明セラレ且支那政府ニ對シ幾多ノ苦情ヲ陳述セラレタリ支那政府亦同條約ノ違反アリタリト爲シ日本政府ノ苦情ヲ拒否シ進テ支那ヨリノ苦情ヲ述

ヘ居レリ  
(五) 九國條約ハ正ニ斯クノ如キ事應ヲ目的トスル規定ヲ包含ス「ブリュッセル」ニ於テ行ハレツツアル意見ノ交換ハ本質的ニ此等ノ規定ニ基礎ヲ置キ第七條ニ規定セララル充分ニシテ且隔意ナキ交渉ヲ構成スルモノナルコトヲ茲ニ指摘スルヲ要ス本會議ハ締結國間ノ紛争ノ平和的解決ヲ援助スル目的ヲ以テ招集セラレタリ該紛争ノ當事國ノ一方即チ支那ハ會議ニ代表ヲ派遣シ會議ノ事業ニ完全ニ協力スル用意アルコトヲ表明セリ會議ハ其ノ協力特ニ望マシキ他

ノ當事國即チ日本國ノ不參加ヲ遺憾トス  
(六) 日本帝國政府ハ「東亞ニ於ケル利害ノ程度相異リ甚シキハ殆ト利害關係ヲ有セサル國ヲモ含ム多數國ノ會議ニ依リ之ヲ解決ヲ圖ルハ却テ事態ヲ紛糾セシメ之カ正當ナル收拾ニ大ナル支障ヲ及ボスヘシトノ確信」ヲ表明セラレタ

茲ニ注意ノ要アルハ同條約ノ規定ニ依レハ同條約締結國タル總テノ國ハ該條約カ之ニ賦與スル權利ヲ行使スル資格ヲ有シ、東亞ニ權益ヲ有スル總テノ國ハ目下ノ敵對行為ニ依リ影響セラレ居リ且全世界ハ該敵對行為ノ平和及國際團體ノ各員ノ安全ニ對スル反響ヲ憂慮シ居レルコトナリ

然レトモ「ブリッセル」ニ會合セル諸國代表ハ此ノ點ニ關シ日本ノ有スル疑念ヲ解消シ得ヘシト思考ス即チ特ニ指定セラレヘキ少數國代表ト意見交換ヲ爲ス爲日本帝國政府カ一名若ハ數名ノ代表ヲ派遣セラルル意思アリヤ否ヤヲ承知致度シ右意見ノ交換ハ九國條約ノ範圍内ニ於テ且同條約ノ規定ニ準據シテ行ハルヘキモノトス

右意見交換ノ目標トスル所ハ前記ノ點ヲ明ニシ紛争ノ解決ヲ求ムルニ在ルヘシ敵對行為ノ繼續ヲ遺憾トシ、平和的處理ノミカ本件紛争ノ永續的且建設的解決ヲ招來シ得ヘキコトヲ確信シ且調停方法ノ有效ナルヘキニ信賴シ「ブリッセル」ニ會合セル諸國代表ハ前記ノ如キ處理ノ實現センコトヲ切望スルモノナリ

(七) 會議參加國ハ其ノ提案ニ對スル日本帝國政府ノ態度ヲ出來得ル限リ速ニ承知センコトヲ重視スルモノナリ  
十一、千九百三十七年十一月十五日ノ聲明ノ文言ハ左ノ如シ  
南「アフリカ」聯邦、「アメリカ」合衆國、澳洲、白耳義、「ボリグイア」、加奈陀、支那、英國、印度、墨西哥、和蘭、新西蘭、葡萄牙及「ソグヰエト」聯邦代表ハ次ノ聲明ヲ作成セリ

(一) 「ブリッセル」ニ於テ會合シタル上記諸國ノ代表ハ千九百三十七年十一月七日日本政府ニ宛テタル通牒ニ對スル十一月十二日附日本政府ノ回答ヲ了承シタルカ日本政府カ依然トシテ日支間ノ紛争ハ九國條約ノ範圍外ニアリト爲シ該紛争ノ平和的解決ヲ達成セントノ努力ヲ目的トスル意見ノ交換ヲ行フコトヲ再ヒ拒絕セルコトヲ認ムルヲ遺憾トス

(二) 本紛争ニ包含セラレタル問題及利害關係ニ對スル日本ノ觀念ハ世界ノ他ノ大多數ノ國民及政府ノ觀念ト著シク相違セルモノナルコト明白ナレリ日本ハ紛争カ日支間ノモノナルヲ以テ右兩國ノミニ關スル所ナリト主張スル處之ニ反シ今次「ブリッセル」ニ於テ會合セル上記諸國代表ハ本紛争ヲ以テ法理上千九百二十二年ノ華府九國條約ノ一切ノ締

約國、千九百二十八年ノ巴黎條約ノ一切ノ締結國及事實上國際團體ノ成員タル一切ノ諸國ニ關係アリト爲スモノナリ九國條約ニ於テ同條約締結國ハ極東ニ於ケル事態ノ安定ヲ目的トスル特定ノ政策ヲ採用スルコトヲ希望ヲ確認シ且支那トノ關係ニ於テ又支那ニ於テ相互ニ或特定ノ原則ヲ適用スルコトニ同意シタルコト且又巴黎條約ニ於テ締結國ハ「相互間ニ起ルコトアルヘキ一切ノ紛争又ハ紛争ハ其ノ性質又ハ起因ノ如何ヲ問ハス平和的手段ニ依ルノ外之

カ處理又ハ解決ヲ求メサルコト」ヲ約シタルコトハ之ヲ否定スルコトヲ得ス  
(三) 日支間ニ於ケル現在ノ敵對行為ハ一切ノ諸國ノ權益ノミナラス殆ト一切ノ國ノ有形的利益ニモ不利ニ影響シタルコトハ之ヲ否定スルヲ得ス右敵對行為ノ結果ハ既ニ第三國國民ノ若干ヲ死ニ到ラシメ第三國ノ幾多ノ國民ヲ大ナル危險ニ曝シ第三國國民ノ財產ヲ廣汎ニ互ツテ破壊シ國際交通ヲ杜絶セシメ國際通商ニ對シテ混亂ト損害ト與ヘ一

切ノ國ノ國民ニ對シテ恐怖ト義憤トノ念ヲ抱カシメ全世界ヲ騷ラフ不確定ト不安トニ陥ラシメタリ  
(四) 「ブリッセル」ニ會合シタル上記諸國代表ハ從ツテ斯クノ如キ敵對行為及ヒ之ニ基ク事態ハ各自ノ代表スル國ニ又之ヲ大ニシテハ全世界ニ不可避的ニ關係アル問題ナリト看做スモノナリ前記代表トシテハ問題ハ單ニ極東ニ於ケル二國間ノモノタルニ止マラスシテ法規、秩序アル手續並ニ世界ノ安全及世界平和ノ問題ナリト認メラル

(五) 日本帝國ハ其ノ十一月十二日附通牒ニ引用シタル十月二十七日附通牒ニ於テ支那ニ對スル兵力ノ使用ハ支那ヲシテ其ノ現在ノ政策ヲ棄テシメント希望スルモノナルコトヲ確言シタリ「ブリッセル」ニ會合シタル上記諸國代表ハ他國ノ內政ニ干渉スル目的ヲ以テ兵力ヲ使用スルコトニ對シテハ如何ナル國ニ依テ爲ナルト雖法律上何等ノ根據存セザルコト並ニ斯クノ如キ權利ヲ一般の承認スルコトハ紛争ノ不斷ノ原因タルヘキコトヲ指摘セント欲ス

(六) 日本政府ハ本紛争ノ解決ハ日支兩國間ニ於テ且兩國限リニ依リテノミ爲サルヘキモノナルコトヲ主張ス然レトモ右ノ如キ方法ニ依リテ公正且恒久的ナル解決ヲ達成セラレ得ヘシト信スルコトハ不可能ナリ現在多數ノ日本軍隊ハ支那領土ニ在リテ其ノ廣大且重要ナル地域ヲ占據シ居レリ日本官憲ノ宣言ハ其ノ趣旨ニ於テ日本ノ目的ヲ以テ日本

支那領土ニ在リテ其ノ廣大且重要ナル地域ヲ占據シ居レリ日本官憲ノ宣言ハ其ノ趣旨ニ於テ日本ノ目的ヲ以テ日本

支那領土ニ在リテ其ノ廣大且重要ナル地域ヲ占據シ居レリ日本官憲ノ宣言ハ其ノ趣旨ニ於テ日本ノ目的ヲ以テ日本

支那領土ニ在リテ其ノ廣大且重要ナル地域ヲ占據シ居レリ日本官憲ノ宣言ハ其ノ趣旨ニ於テ日本ノ目的ヲ以テ日本

ノ意思及要求ニ抵抗セントスル支那ノ意思及能力ヲ挫カントスルニアリト爲シ又日本政府ハ支那ノ行動及態度コソ

三八

九國條約ニ違反スルモノナルコトヲ確言セリ然レニ支那ハ本件ニ關シ九國條約ノ他ノ締約國ト充分ニシテ且隔意ナキ交渉ヲ行ヒ居ルニ反シ日本ハ條約國ノ何レトモ之ヲ討議スルコトヲ拒絕セリ支那官憲ハ其ノ累次ノ宣明ニ於テ協定ニ依ル解決ノ爲ニ日本ノミト交渉スル意思ナク又事實上右ノ不可能ナルコトヲ明白ニシタリ斯ル狀態ニ於テ日支兩國ノミニ委スルニ於テハ近キ將來ニ於テ兩國間ノ平和、他國ノ權利及利益ノ保障並ニ極東ニ於ケル政治上及經濟上ノ安定ヲ約束スルカ如何等ノ解決ニ到達スヘキコトヲ信スヘキ何等ノ根據ナシ若シ事件ヲ全然日支兩國ノ決定ニ委スルニ於テハ生命及財產ノ破壊、無秩序、不確定、不安定、困苦、敵愾心、嫌惡及全世界ニ對スル混亂ヲ伴フ武力紛争ハ永遠ニ繼續スヘキコトヲ信スヘキ凡ユル理由存在ス

(八) 日本政府ハ今回ノ通牒ニ於テ「ブリュッセル」ニ代表セラレ居ル列國ニ對シ現實ノ事態ニ即シテ東亞ノ安定ニ寄與スヘキコトヲ要請セリ

(九) 「ブリュッセル」ニ會合シタル上記諸國代表ノ意見ハ以上注意ヲ喚起セル諸點コソ正ニ事態ノ本質的現實ナレト爲スモノナリ

(十) 「ブリュッセル」ニ會合シタル上記諸國ノ代表ハ如上ノ理由ニ依リ公正且永續的ナル解決ハ兩當事國間ノ直接交渉ヨリ期待スルコトヲ得タルヘキコトニ付確信ヲ有ス日本政府ニ宛テタル通牒ニ於テ日本政府カ「ブリュッセル」ニ會合シタル諸國ノ代表又ハ右目的ノ爲選ハルヘキ少數ノ國ノ代表ト會商センコトヲ要請シタルハ斯カル意見交換ノ結果ハ其ノ餘延ヲ受諾シ延イテ満足ナル解決ノ交渉ニ到ルニ資スヘキ希望ノ下ニ正ニ以上ノ理由ニ基ケルモノナリ

(十一) 「ブリュッセル」ニ會合シタル上記諸國ノ代表ハ紛争當事國カ斯クノ如キ手續ヲ試ル機會ヲ與フル爲敵對行為ノ中止ニ同意スルニ於テハ今尙成功ヲ幾チ得ル望アルコトヲ信スルモノナリ支那代表部ハ右手續ニ同意スル用意アルコトヲ示シタリ「ブリュッセル」ニ會合シタル諸國ノ代表ハ日本カ斯クノ如キ方法ヲ討議スルコトヲ執拗ニ拒絕スルコト

ヲ理解スルニ苦シムモノナリ

(十二) 日本カ右ノ如キ拒絕的態度ヲ固執セテランコトヲ希望シツツ「ブリュッセル」ニ代表セラレタル上記諸國ハ國際條約ノ一締約國カ他ノ一切ノ締約國ノ意見ニ反對シ自國カ執リタル行動ヲ以テ該條約ノ範圍外ニアリト爲シ且他ノ締約國カ右事態ニ於テ適用アリト信スル條約上ノ條項ヲ看過スル事態ニ於テ其ノ共同ノ態度ノ何タルヘキカニ付考慮スルヲ要ス

瑞典代表「ド・ダレダ」氏ハ次ノ聲明ヲ爲シタリ

調停ヲ爲サントスル會議ノ努力カ今日迄成果ヲ得ナリシ事實ニ對シテ深甚ナル遺憾ヲ感スルコト瑞典政府ニ勝ルモノアラサルヘシ右ノ事實ニ直面シタル瑞典政府ハ聲明ノ原則ニハ賛意ヲ表スルモノナルモ極東ニ他ノ列強ノ場合ニ於ケル如キ政治的利害關係ヲ有セサルヲ以テ本聲明ニ投票スルコトヲ棄權スルヲ以テ其ノ任務ナリト信ス

諸國代表「オーベル」氏ハ次ノ聲明ヲ爲シタリ

諸國政府ハ本會議ノ招請ヲ出來得ヘクンハ之ニ依テ極東ニ於ケル紛争ノ平和的調停ニ依ル解決ニ寄與セントノ希望ニ基イテ受諾セリ斯ル調停ニ對スル會議ノ努力カ今日迄何等ノ成果ヲ得ナリシコトヲ遺憾トスルコト諸國政府ニ如クモノアラサルヘシ余ハ本聲明中ニ流ルル原則ニ全ク同意ニシテ右諸原則ヲ基礎トシテ調停ニ依リ解決ノ齎サルヘキコトノ尙可能ナルヘキコトヲ敢テ希望スルモノナリ然レトモ本月十三日余ノ爲シタル宣言ニ鑑ミ余ハ投票ヲ棄權スルヲ以テ正當ナリト認ム

丁抹代表「ヘンリック」氏ハ次ノ聲明ヲ爲シタリ

余ハ今瑞典及諸國同僚ノ爲シタル聲明ニ賛同セント欲ス丁抹國モ調停ニ對スル努力カ今日迄成功ニ到ラナリシヲ遺憾トスルモノニシテ余モ亦愛ニ調停手段ニ依リ何等カノ結果ヲ齎スコトノ尙可能ナルヘキヲ希望スルモノナリ聲明中ニ含マル諸原則ニハ全幅的ニ賛意ヲ有スルモノナルカ「スカンデナヴィア」同僚ノ下シタル同様ノ理由ニ基キ

三九

余モ本聲明ノ正文ニ投票スルコトヲ棄權スルヲ以テ正當ナリト認ム  
伊太利代表「アルドロヴンディ」氏ハ次ノ聲明ヲ爲シタリ

伊太利ハ本聲明ヲ以テ紛争ノ解決ノ爲ニスルニアラスシテ寧ろ其ノ最深利ナル紛糾ニ對シテ途ヲ開クモノナリト思  
考ス

伊太利ハ之ニ基イテ發生スルコトアルヘキ責任ヲ取ル意圖ヲ有セス從ツテ之レカ解決ニ決定的ニ反對ノ意ヲ表ス但  
シ爾後ニ於ケル紛争ノ局面ニ關スル一切ニ就テハ其ノ態度ヲ留保スルモノナリ  
十二、千九百三十七年十一月二十四日ノ聲明ノ文言左ノ如シ

(一) 九國條約ハ世界ノ各國カ或種ノ原則ヲ明ニシ相互ノ關係ニ於テ約束ニ依ル或種ノ制限ヲ課シ且他國ノ主權ヲ尊重

シ他國ニ對スル政治的若ハ經濟的ノ一切ノ新權ヲ拋棄シ他國ノ内政ニ對スル一切ノ干涉ヲ相互ニ差控フヘキコトヲ  
嚴肅ニ約束セル數多ノ國際的文書ノ顯著ナル一例ナリ

(二) 此等ノ國際的文書ハ武力ニ訴フルコトナクシテ國際の安全及平和ヲ保持スルヲ目的トシ且依テ以テ諸國民間ノ關  
係カ相互ノ信頼、善意並ニ總テノ國ニ有益ナル商業的及金融的關係ヲ基礎トシテ成立シ得ヘキ機構ヲ構成スルモノ  
ナリ

(三) 此等ノ原則ヲ無視シテ武力ニ訴フルコトハ條約ニ依リ與ヘラルル保障ヲ基礎トスル國際關係ノ全組織ヲ動搖セシ  
ムルモノナルコトハ否定スルヲ得ス斯ル場合ニハ總テノ國ハ軍備ヲ不斷ニ増大シテ安全ヲ追求セサルヲ得ス其ノ結  
果トシテ一般のナル不安定ト不安全ノ感情ヲ生ス此等ノ原則ノ有效性ハ武力ヲ以テ破壞スルヲ得ス此等ノ原則カ普  
遍のニ適用セラレ得ルコトヲ否定スルヲ得ス最後ニ此等ノ原則カ文明ト進歩トノ不可缺ノ條件タルコトヲ爭フヲ得  
ス

(四) 本會議カ白耳義政府ノ送付セル招請狀ニ言ヘル如ク「九國條約第七條ニ基キ東亞ニ於ケル事關ヲ檢討シ且該地域

ニ行ハルル遺憾ナル紛争ノ終結ヲ促進スヘキ和協手段ヲ攻究スル爲」「ブリッセル」ニ招集セラレタルハ此等ノ原  
則ニ合致スルモノナリ

(五) 十一月三日開會以來會議ハ和解ヲ促進シ且敵對行爲ヲ終止シ協定ノ締結ニ資セン爲日本政府ノ協力ヲ得ン爲終始  
一切ノ努力ヲ傾倒セリ

(六) 國際紛争ノ公正且永續のナル解決ハ一切強力ノ使用ニ依リテ齎サルヘキモノニアラストハ會議ノ確信スル所ナリ  
會議ハ本紛争ノ兩當事國ニ於テ一般の且永續の解決ノ先決要件タル敵對行爲ノ急遽ナル終止ヲ齎サンカ爲他ノ諸國  
カ供與シタル支援ヲ利用スルコトカ其ノ直接且真實ノ利益タルヘキコトヲ今尙信スルモノナリ同様に會議ハ満足ナ  
ル解決ハ紛争ノ當事國ノミノ間ニ於ケル直接ノ交渉ニ依リテハ到達シ得ス又内容ノ公正ニシテ一切ノ國ニ依リ受諾  
セラレ得ヘキ且永續スヘキ望ヲ有スル協定ハ他ノ主要ナル利害關係國トノ協議ノ方途ヲ選フニアラスンハ到達シ得  
タルヘキコトヲ信スルモノナリ

(七) 本會議ハ九國條約ノ原則ハ世界平和ノ維持ノ爲又國家生活及國際生活ノ秩序アリ且進歩的ナル發展ノ爲尊重セザ  
ルコトヲ得ナル根本原則ノ一ナルコトヲ重申テ確言セント欲スルモノナリ

(八) 會議ハ東亞ニ於ケル敵對行爲ノ速ナル終止ハ單ニ日支兩國ノミナラス一切ノ諸國ノ真正ナル利益ニ資スヘキコト  
ヲ確信ス一日速ナルニ於テハ人命ノ損失及財產ノ破壊ヲ増大シ紛争ノ解決ヲ一層困難ナラシムヘシ

(九) 從テ會議ハ敵對行爲ノ終止セラレ平和の手續ニ移サレンコトヲ勸奨シテ他マサルモノナリ

(十) 會議ハ紛争ヲ平和の且公正ニ解決スヘキ手段ハ一切之ヲ等閑視又ハ省略スヘカラサルモノト認ム  
會議ハ九國條約ノ諸原則ヲ遵奉シ同條約ノ目的ニ忠實ナルト共ニ參加國ヲシテ意見ヲ交換シ紛争ノ解決ヲ齎スヘ  
キ一切ノ平和的且妥當ナル方法ノ探究ヲ繼續セシムル爲茲ニ會合ヲ一時中止スルヲ以テ適切ナリト認ムモノナリ

右ト同時ニ「ブリッセル」ニ會合シタル一切ノ諸國ハ九國條約ノ當事國タル事實又ハ東亞ニ特殊ノ權益ヲ有スル事  
四一



實ニ鑑ミ東亞ニ於ル紛争カ依然其ノ全體ノ關心事タリト爲スニ於テ何等論ル所ナシ右ハ殊ニ東亞ニ於ケル事態及事變ノ推移ニ依テ一層迅速且直接ナル影響ヲ蒙レル參加國中ノ一部ノ諸國ニ於テ特ニ然リトス參加國中九國條約ノ當事國ハ明白ニ東亞ニ於ケル事態ヲ安定セシムルコトヲ目的トスル政策ヲ採用シタルモノニシテ右諸國ハ右目的ノ爲同條約ノ規定ニ準據スルコトヲ要シ右規定中最重要ナルヲ第一條及第七條ナリトス

(五) 會議ハ其ノ議長又ハ參加國中何レカノ二國ニ於テ議事ノ再開ヲ有益ナリト認ムル旨ヲ宣言シタル場合ニ於テ更メテ招集セラルヘシ

附屬書

- (一) 白國政府ヨリ日本政府ニ宛テタル會議參加招請狀ニ對スル日本政府ノ回答
  - (二) 日本外務省聲明
  - (三) 九國會議參加招請狀ニ對スル日本ノ回答及千九百三十七年十月二十七日日本政府聲明ニ關シ千九百三十七年十一月四日支那外交部情報司長ノ發表シタル註釋
  - (四) 千九百三十七年十一月七日會議ヨリ日本政府ニ宛テタル覺書ニ對スル日本政府ノ回答
  - (五) 千九百三十七年十一月三日支那代表顧維鈞博士ノ會議ニ於テ爲シタル演說
  - (六) 千九百三十七年十一月十三日支那代表顧維鈞博士ノ會議ニ於テ爲シタル演說
  - (七) 千九百三十七年十一月二十四日支那代表顧維鈞博士ノ會議ニ於テ爲シタル演說
  - (八) 千九百三十七年十一月二十四日伊太利代表「アルドロゴアンディ・マレスコライ」伯ノ會議ニ於テ爲シタル演說(譯文)
- 會議ノ當初以來予ハ本會議ノ效果ニ付疑ヲ表明シ來レル處予ノ疑ハ茲ニ事實ト爲リタリ從ツテ會議ノ休會ニ入レル

予自然ノ勢ナリト爲スモノ予ニ如クモノアラサルヘシ予ハ會議ノ閉會ヲモ自然ト爲スモノナルヲ以テ茲ニ提案セラレタル休會ニ賛意ヲ表スルニ吝ナラス

然レトモ同時ニ予ハ本文書ニ盛ラレタル論議ニ反對ノ意ヲ表シ從テ其ノ採擇ニ賛成スルコトヲ得ス

(是等附屬書ノ翻譯ハ前記(八)ヲ除クノ外省略セルニ付原文ヲ參照スルコトヲ要ス)